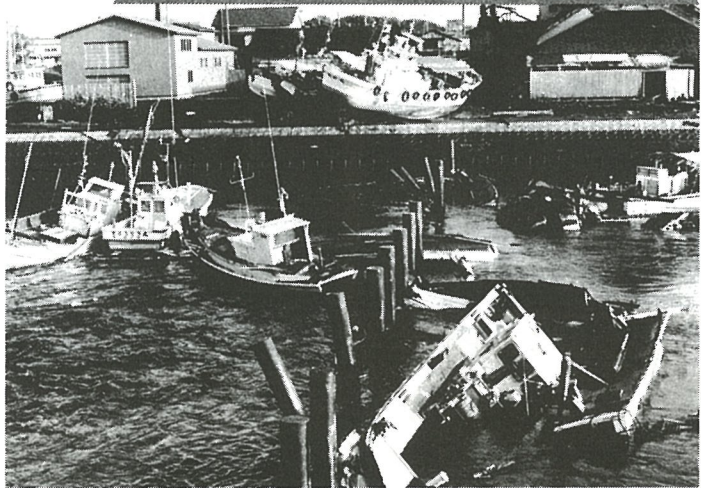


海の季節 津波に用心



昨年五月に発生した日本海中部地震での津波による被害(秋田魁新報社提供)

「海を見たら、つなみが、もうそこまできていました。テトラポットは、あともう少いで、見えなくなるほどでした。それを見た私は、もう、びっくりし、おそろしいままで『家はどうなるんだ。家がこわれる』と思いました。そして、そのままないてしまいました」

これは、昨年五月の「日本海中部地震」での津波を目の当たりに見た、ある小学生の作文です。子供たちにとって、いつもはやさしかった海、美しかった海が、その時、突如として真つ黒な悪魔となったのです。津波に襲われた時のショックは、子供ばかりか大人でも、とても言葉では言い表わせなかつたことでしょう。

津波から身を守るには、「早期避難」しか道はありません。レジャーやスポーツで海に出かける人は決して海をあなごることなく、そして、いざというときは素早く行動できるように、日ごろから津波に対する心がまえを持つようしてください。

津波の性質

地形により波は高くなる

津波の伝わる速さには、深い海では速く、浅い海では遅くなるという性質があります。

例えば、深さ五千メートルの海では津波は毎秒約二百二十メートルの速度ですが、五百メートルの深さでは毎秒約七十メートルにペースダウンします。

このため、地震の震源域が陸地から遠く離れている場合には、津波は地震よりかなり遅れてやってきます。一方、震源域が陸地に近い所では、まだ地震の揺れが収まらないうちにやってく

ることもあります。

また、津波は波というよりは大きな水の動きですから、外洋では、一つの波長が数十キロメートルにも及び、波の高さもせいぜい数メートルぐらいです。

このため、航行中の船などは津波に気づかないこともあります。

しかし、津波は海岸に近づくにしたがって波高が増し、海岸を越す高さにもなることがあります。

津波の予報

地震発生後
二十分以内に発表

津波の予報は、予想される波

の高さによって津波警報と津波注意報に分けられます。

津波注意報は、波の高さが数十センチと予想されるときに発表されます。

津波警報では、波の高さが二メートルに達すると予想されるとき「津波」、三メートルを超えるとと思われるときは「大津波」と呼ばれます。

これらの予報は、地震発生後二十分以内に発表され、NHK、電電公社、警察、海上保安庁、国鉄などの機関を通じて広く知らされることになっています。警報や注意報が発表されたら、解除されるまでは絶対海に近づかないでください。

津波に対する心得

【陸地にいる人の場合】

1. 強い地震を感じたら、すぐ海岸から離れる
2. 正しい情報をラジオ、テレビ、広報車などを通じて入手する
3. 地震を感じなくても、津波警報が発表されたら沿岸の危険な区域にいる人はすぐ避難する
4. 津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険なので行わない
5. 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除まで気をゆるめない

【船舶の場合】

1. 強い地震を感じたら、すぐ港外(水深の深い、広い海域)に退避する
2. 正しい情報をラジオ、テレビ、無線などを通じて入手する
3. 地震を感じなくても、津波警報、注意報が発表されたら、すぐ港外退避する
4. 港外退避できない小型船は、高い所に引き上げて固縛(つなぎとめる)するなど最善の措置をとる
5. 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除まで気をゆるめない

冒頭の作文は、日本放送出版協会発行「大地震に遭った子どもたち」より引用しました。